



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより



あけましておめでとうございます。

理事長 相原 弘子



昨年を振り返ってみますと、夏の参議院選挙で与党が過半数割れをし、石破茂首相が退陣、10月21日に高市早苗新政権が樹立するという、慌しい一年でした。その中で、福祉、特に介護事業において、各関係団体からの提言・要望もあり令和7年度補正予算において、物価高騰や賃上げに一定の支援方針が打ち出されたことは、少しホッとする出来事でした。しかし、超少子高齢化に歯止めがなく、労働力不足である現状は、私たちの仕事においても人材の確保で引き続き最大の課題であります。人が働く場所を選ぶのには、給与は影響しますが、同時に自身の存在意義の確認であったり、いかにやりがいを感じるかということも左右するのではないのでしょうか。

今年度、法人内でのすべての研修に「地域公益活動」について考えるワークを実施しました。自施設での地域活動の確認をしい、今後自分が関わってみたい活動は何かなどの意見交換をすることができ、有意義な時間となりました。元々、村山苑では、保育所の開設後、地域住民の声に応えるように0歳児保育や障害児保育を率先して始めました。特別養護老人ホームの開所後には、在宅機能回復訓練事業やひとり暮らし老人給食サービスを実施したこともあります。今でも、施設毎に出前保育や離乳食試食会、空きスペースの無料貸し出し、地域でのゴミ拾いや職業体験受け入れ、リハビリ運動教室、法人単位では東村山市内社会福祉法人連絡会の活動やコードモナツマツリやふりばの実施、生活相談や中間的就労の場の提供等々を実施しており、これらのことは職員の一人一人が理解していました。地域貢献は、法人理念の実現の一環であり、また、福祉施設で働く者の専門性を地域に還元し繋がりを築く必要のあるもの、という意見とともに、更に子ども食堂をやっているかという意見も多く出されました。頼もしくうれしい限りです。

最近では、身寄りのない方々への支援についてどう考えていくかが話題になっています。今年は「丙午」で情熱をもって行動する年です。地域で求められていることは何かをしつかりキャッチし、地域と連携して、孤独孤立を防ぐよう多世代が集うことのできる居場所づくりにも職員一同で取り組みを始めたいと考えます。どうぞ、本年も皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年度 法人研修について

法人研修担当 総務課長 杉山 陽子

令和7年度の法人内研修は、「地域貢献を考える」を共通テーマとして実施しています。地域公益活動は、社会福祉法人が果たすべき重要な使命の一つです。複雑化する地域課題や多様なニーズに対応するためには、職員一人ひとりが自らの業務を地域貢献という大きな視点から捉えることが重要となります。本研修で各施設の事業を共有し、実践に活かすことで、地域社会への具体的な貢献へと結び付けていきたいと考えています。令和7年度の研修概要と成果をご報告いたします。

研 修 名	実施・予定日	参加人数	対 象 者
ステップアップ研修	6月27日(金)	14名	障がい者雇用職員 各施設担当者
新任職員 フォローアップ研修	9月11日(木)	21名	新任職員研修参加者
栄養士・調理員研修	10月24日(金)	16名	各施設栄養士・調理員
ミドルリーダー研修	10月29日(水)	20名	勤続5～10年の職員
フォローフォロー研修	11月11日(火)	15名	勤続2～3年の職員
テーマ別研修 「地域貢献を考える」	11月18日(火)	32名	各施設より複数名
看護師研修	11月25日(火)	6名	各施設看護師
福祉サービス研究研修	1月20日(火)	—	各施設より複数名
新任職員研修	3月30日(月) 31日(火)	—	令和7年度中途採用者 令和8年度採用予定者

● ステップアップ研修

障害者雇用職員と担当職員が参加し、2部制で実施しました。第1部では「おしごとっこがんばるぞ宣言」に基づき、昨年度の振り返り、今年度の課題・目標を共有し、新たな活力につなげました。第2部では、担当職員間で専門機関との連携強化や就労継続のためのポイントを確認し、より長く安心して働ける環境づくりへの意識を深めました。

● 新任職員フォローアップ研修

新任職員が半年ぶりに再会し、「地域貢献」についてグループワークを実施しました。自施設の事業発表と「今後、行ってみたい地域貢献」の実現方法を掘り下げ、活発に意見交換を行いました。同期の仲間が集まったことで、半年間の成長を確認し合い、頼もしい姿が見られました。

● 栄養士・調理員研修

栄養士と調理員が混合グループで地域貢献をテーマに意見交換を行いました。「子ども食堂の実施」などの具体的な意見が出され、職種を超えた連携による実現への意欲が高まりました。その後の職種別情報交換では、現状の課題共有と専門性の向上を確認しました。

● ミドルリーダー研修

勤続5～10年の中堅職員による研修で、参加者が自発的に議論を進行。地域貢献とミドルリーダーの役割について活発な意見交換が行われました。「現場の声を吸い上げ、組織と地域の橋渡しとなる」一中間層として組織運営に貢献する「など、高い使命感が確認されました。この学びを現場に還元し、組織発展と地域貢献に努めます。



● フォローフォロー研修

勤続2～3年の職員が様々な職種でグループワークを実施。お互いの施設状況を知ること、村山苑全体の活動理解を深めました。具体的に有効的な提案が多く出され、近況の情報交換も含め、同期との連携強化につながりました。

● テーマ別研修

むらやまえん生活相談所の実践発表を受け、参加者全員が自身の立場で相談対応について意見交換を行いました。複雑な事例に対し、多角的な視点から対応策を検討する貴重な機会となりました。

● 看護師研修

各施設の看護師が、医療専門職の視点から「地域貢献」について意見交換を行いました。専門職ならではの具体的な意見が共有されました。情報交換では各施設の感染症対策の現状を共有し、質の高い医療・ケア提供に向けた意識を統一しました。

● 福祉サービス研究研修

昨年度に続き「虐待根絶に向けて」をテーマに5施設からの実践発表を予定しています。職員に加え、役員・評議員の皆様にもご参加いただきます。各施設の努力を知ることが、日々の業務へ向かう気持ちを新たにする機会となっています。

● 新任職員研修

法人の歴史、基本理念、規程、マナー、虐待防止などを中心に、新しい仲間を迎えるにあたり、志を一つにするための2日間の開催を予定しています。各施設の見学も実施し、村山苑の一員となるという意識を深めて頂きます。



ふくし未来塾に参加して

業務執行理事

つぼみ保育園 園長

船木 芳枝



私が今回ふくし未来塾に参加をさせて頂いたきっかけは、社会福祉従事者として長い間保育所に保育士として勤務をしていて、9年前に施設長となり、今まで見ていたことや、感じていた事は、保育の世界での極々目の前の一部の事である事に気がついたことにあります。福祉を取り巻く環境はこれまでと大きく変わり、人材不足、8050問題、ヤングケアラーや、

ダブルケアと様々な課題があり、更に2040年に向け超高齢少子化になり、人口減少が大きく進むことにより、地域生活課題、福祉ニーズが多様化・複雑化し、一層生きづらさが増していくと言われています。こうした背景を踏まえ、「ふくし未来塾」ではふくし制度の枠を超え、地域コミュニティにおいて共生社会の創造をけん引する「ともに生きる豊かな地域社会」の実現を理念にしていたので、地域との繋がりが、地域貢献についての学びを深められればと思ったからです。

対面での講義では、「ふくし」の制度の枠を超えた地域貢献、地域コミュニティを作るために自法人が考える公益事業について」であり、ゼミ方式で進められました。参加者は、北は青森、南は石垣島と全国から集まり、種別も、地域の課題も様々ですが、目的はみんなが同じ。どの法人も現在地域貢献を行っている中で、今回の未来塾では今までにないこれからの時代に求められる地域貢献、地域のコミュニティになりえる場作りを考へることでした。そして、そこに関わる人がわくわくできる内容でないと持続していくことはできな

い。その内容を踏まえた地域貢献に向けて考えていくという課題が出されました。3日間の対面では、朝から夜遅くまで議論を交わしました。その後は月1回でのオンラインとなり、対話議論するなかでそれぞれの課題に向き合いつつ、取り組みのヒントとなる提案や他法人の取り組み等聞くことができ、とても貴重な時間となりました。かけがえのない出会いとなりました。時に厳しい議論となることもありましたが、その対話の中で「村山苑はほぼ同じ地域で他種別にわたる事業を展開していることは他にはない強みである」ことを再確認することができました。そして地域に高校が複数校あることで高校生をの力を借りながら地域を盛り上げていけるのではないかと、そこから未来の担い手となる人財が育つことも大きな楽しみに繋がっていきけることができ、持続に繋がるひとつであるとの話になりました。

今各施設で行っている地域貢献を、今後更に法人としてどのような形でまとめ地域コミュニティを作っていくのか、まだまだ未知ではあります。地域の方のニーズを受け止め、応えていけるよう、又地域の一員であり続けていける

法人であるよう公益事業を行っていく為に一歩踏み出す勇氣を持つとうと思っています。いろいろな人と手をつなぎ輪を拡げていけるよう、そして、一番は楽しい気持ちを持ち続けられるような取り組みを考えていければと思います。今回このような機会を得たことで、福祉の基本となる部分の話にも触れ再確認ができた事で、自分の視野が少し広がったと思います。この体験から、これから支えていく職員の皆さんに福祉の大切さ、魅力を伝え続けられればとも思います。そして社会福祉法人で働くひとりとして、人を支えるのが社会福祉法人であり、人を支える仕組みを作るのも社会福祉法人の役割であることを忘れずにこれからも良質な福祉サービスを利用者に提供することができるよう歩み続けていこうと思います。



施設通信

つぼみ保育園

『給食新聞』

保育士 三宅 理花

食事はただ単に空腹を満たすだけのものではなく、健康な生活の基礎を培っていくために必要不可欠なものです。そのため保育園でも栽培活動や調理活動、行事食など様々な食育活動に取り組んでいます。そして家庭への発信も大切で、つぼみ保育園では『給食新聞』を2か月に1度程のペースで掲示し、保護者に食育活動を発信しています。内容は「野菜の栽培」や「旬の食材への親しみを感じる活動」「栄養素について」など様々ですが、その活動を通して実際に食材に触れ、匂いを嗅ぎ、食べ、子どもたちの気付きやおいしさをみんなでも共有して楽しんでいます。そんな姿を保護者に発信すること、家庭でも食の大切さに気付いたり、ご家族皆さんで食卓を囲み「一緒に食べるとおいしいね。」という気持ちになってもいいと思います。



ふじみ保育園

『秋まつり』

保育士 菅原 詩葉

ふじみ保育園では11月15日に秋まつりがありました。去年11月に入職した私は、二度目の秋まつりです。普段と違う雰囲気ドキドキしている子や、おめかしをして非日常感をめいっぱい楽しんでいる子など、様々な姿を見ることができました。去年の私は初めての園全体での行事に緊張ばかりで、実は当時の記憶がほとんどありません。今年は気持ちに余裕をもつて、子どもたちとたくさんやりとりをし、各ご家庭の様子にも目を向け、私自身も秋まつりを楽しむことができました。私は現在年長児の担任をしているため、今のクラスの子たちと経験する行事はすべてが最後です。一回一回を大切に、一緒に全力で楽しんでいこうと思います。



ほんちよう保育園

『乳児クラスのお芋掘り』

保育士 小山 明奈

ほんちよう保育園の乳児クラスの芋ほりは、園庭にある畑で行います。2歳児クラスが中心となり、保育士、栄養士、調理員で構成した食育リーダーと一緒に畑作り、苗植えをしました。園庭に出た際は、子どもたちが水やりをして栽培を楽しんでいました。

先日、秋晴れの下、乳児クラスで芋掘りを行いました。子どもたちは、土の感触を手で確かめながら「どこにあるかな?」と夢中になって掘っていました。土の匂い、芋の色や形、掘り出した時の芋の重みなど五感を通して自然の恵みを感じる貴重な体験となりました。自分の力で掘り出した芋を大切に持つ姿は達成感と喜びが溢れていました。

四季を通して五感で感じることを大切にしながら、身近な自然に親しむ保育を行っていききたいと思っています。



ひよし保育園

『すくわくプログラム』

実施内容

保育士 菅原真由美

すくわくプログラムとは、「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探究心(わくわく)」を応援する東京都のプログラムを令和6年度から取り組みさせていただき2年目になります。

私のクラス(3歳児から始め今年4歳児)の子ども達は、生き物、特に虫が大好きでバッタを飼いはじめた事をきっかけに、昨年アゲハ蝶を卵から孵化させ育てました。そしてモンシロチョウも育てたいと園庭に畑を作らせてもらい、今年プロッコリーの苗を植え見事モンシロチョウを卵から20匹以上育てました。また蝶々だけでなくカマキリ等、現在ではヤモリも飼育し食物連鎖・命について生きた学びとなつていきます。これからも子どもたちの「やってみたい」に耳を傾け探究心を育てつつ、大人も一緒にいろいろな事を楽しんでいます。



村山荘

『救護合同イベント』

援助員 井口 幹太

令和7年11月13日、村山苑の「救護合同イベント」が開催されました。さつき荘と村山荘の利用者がグラウンドに集い、自分でおにぎりを握り、スープを用意する参加型の食事を楽しみました。

当日は気温が低く曇り空でしたが、かまどで作る温かいカレー味とみそ味のスープが体を温め、会話も弾みました。白い息が寒さを物語る一方、その寒さがスープをより一層おいしく感じさせました。

ボランテアやクラブの先生方も参加し、交流を深めました。「自分で作る」という昨年は好評で、多くの反省点はあるながらも「行って良かった」と思える有意義なイベントとなりました。



さつき荘

『東村山市立第二中学校職場体験』

相談員 澤井 美里

昨年に続き、東村山市立東村山第二中学校二年生が二名来荘されました。今年の中学生は、福祉施設の見学やボランテアの経験も初めてで、緊張した様子で体験が始まりました。多くの利用者が快く迎え入れてくれる中、クラブ活動や作業、リネン交換、昼食配膳から会議の参加まで、二日間でしたが幅広い体験を楽しむだけでなく、しっかりとやり切っていたくれました。「職員が利用者を介助するだけではなく、できることは見守り支援することが印象に残った。」との感想をいただいています。

興味やきっかけがなければ自分から訪れる機会がない福祉施設ですが、少しでも知っていただき、将来の職場の選択肢の一つになれることを願っています。



福祉事業センター

『福祉施設職員の人間関係、コミュニケーション事例から学ぶ』

生活支援員 井手 和子

福祉事業センター人材育成（研修）委員会は、職員アンケートの結果に基づき、「福祉施設職員の人間関係、コミュニケーション事例から学ぶ」と題した研修を企画実施しました。研修実施にあたっては、東京都福祉人材センター登録講師派遣事業を活用し、講師として関屋光泰先生をお招き致しました。事前に研修目的や職員の意向を関屋先生にお伝えし研修内容に反映して頂きました。

研修は、先生の豊富な知見と経験に基づき、職員が「わかりやすく共感」できる事例で構成され、参加型の「ワーク」も盛り込まれました。職員から、日頃の業務も振り返りながら「ストレスケアや、良好な人間関係を築くためのヒントを学ぶことができた」などの感想が聞かれました。

今後、職員の質向上につながる研修を実施していきます。



ハトホーム

『介護職員短期派遣研修』

介護職員 河合久美子

東村山市高齢者福祉施設連絡会主催の介護職員短期派遣研修という取り組みがあります。東村山市内における事業所が相互の交流、理解を深めると同時に、各施設や職員の資質向上に役立てるという目的があります。残念ながらコロナ禍では中断となっていました。今年度も取組みを継続しています。

他施設を訪問して、業務内容を見せていただく事はとても貴重な機会であり、新たな発見や驚きがあり、視野が広がりました。他施設の良い業務や取組みを施設内でも共有し、活かしていきたいと思っています。



第2ハトホーム

『大運動会』

看護師 塩野真衣子



令和7年10月8日(水)、第2ハトホームでは秋の恒例行事「大運動会」を開催しました。入居者の皆さまはフロア毎に分かれ、玉入れや物送りリレー、風船投げなどの競技に元氣いっぱい参加されました。玉入れでは職員が背負ったカゴに狙いを定めて玉を投げ、物送りリレーでは息を合わせて協力し合う姿が印象的でした。風船投げでは飛距離を競い合い、会場は笑いと拍手に包まれました。職員による風船リレーも行われ、入居者の皆さまから大きな声援が送られました。競技を通して笑顔が広がり、心も体も温まる一日となりました。最後には表彰式を行い、入居者の皆さまから「楽しかった」「また来年も頑張りたい」との声が多く聞かれました。

ほんちようケアセンター

『基準緩和型訪問サービス (訪問A) 本格開始』

サービス提供責任者 川合 博之

ほんちようケアセンターでは、地域の皆さまが住み慣れたご自宅で過ごせるよう、訪問介護サービスを提供しています。資格を持つホームヘルパーがご自宅を訪問し、掃除・洗濯・買い物・食事づくりなどの日常生活支援や、おむつ交換などの身体介護を行っています。ご利用者一人ひとりの生活に合わせた支援を心がけています。

また、当事業所ではようやく「基準緩和型訪問サービス(訪問A)」を開始いたします。これは要支援の方などが利用できる身近なサービスで、研修を受けたスタッフが家事支援を行う仕組みです。介護人材の確保にもつながり、一定の研修で働くことが可能となります。

介護が必要となる前の段階から支えることで、できることを続けながら、住み慣れた地域で変わらず暮らし続けられるよう、これからも支援していきます。

村山苑ふりば

地域に根差した

法人を目指して

ふりば実行委員長

第2ハトホーム 副施設長

鈴木 野生

令和7年9月21日(日)「村山苑ふりば」が開催されました。

「ふりば」とは、誰もが自由(free)に集まれる場(freeな場)ふりば、という意味を込めた造語です。ふりばには、「地域の皆様との交流の機会をつくりたい」「参加した皆様の横のつながりを構築する場にしていただきたい」という目的があります。

そのため、法人内職員のみのみで完結させるのではなく、地域の方や、他事業所・団体の皆様にも積極的に声をかけ、ブースを



出していただいています。

内容は毎年少しずつ変わっていますが、フリーマーケット、フラワーアレンジメント、作業所での制作物、利用者による綿あめ、地域で営業をするキッチンカー、ポップコーン、かき氷、相談ブース、防災ブース、アトラクション(紙芝居、エプロンシアター、シナプスロジー、フアッションショー、ダブルダッチ)など、多岐にわたります。

開催は今年で3回目となり、「去年もやってみましたよね?」など声をかけていただくこともありましたが、少しずつ地域の皆様にも知ってもらえるようになってきたと思います。これからも活動を継続することで、地域に根差したイベントの一つになっていけば嬉しいと思っています。



寄附について

左記期間において、御寄附頂いた皆様をご紹介します。
ご支援ご協力頂き、心から感謝申し上げます。（敬称略）

■令和六年四月一日～
令和七年三月三十一日

アンカー・ジャパン株式会社、井口幹太、植田哲、白田誠寿、大谷建興株式会社、荻野清、株式会社イデア建築研究所、株式会社コスモス医工、株式会社東光、神山美智子、黒岩祐、古賀清泉、小島貢、齊藤太志、里見朋子、社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会事務局、聖心女子学院中高もゆる会、手作りパンの店 萌留珠、手塚真一、肉の越木屋、日本生命労働組合首都圏CSO支部、富士見町南地区自主防災組織、細淵富子、松島クリーニング、宮田敏行、明治学院中学校・明治学院東村山高等学校、森恵子、有限会社いとう教材社、有限会社いとう屋、有限会社グッドフーズ西東京、有限会社高橋米穀店、有限会社浜長水産、渡部典子（五十音順）

故上島覚英氏

絵画ご寄贈の御礼

このたび、KAKUの会様より、東村山が生んだ画家、故上島覚英氏の貴重な絵画を各施設に多数ご寄贈いただきました。

故上島覚英氏の母君で、当苑ふじみ保育園元園長の故上島ハマ子様との深いご縁に心より感謝申し上げます。

情熱をもって描かれた作品の一つ一つが、ご利用者の皆さまや職員、地域の皆さまの心を慰め、励ましてくれるものと思います。大切に飾らせていただきます。



【表彰状受賞者】

次の方が表彰されました。
おめでとうございます。
益々のご活躍を期待しております。

◆第74回東京都社会福祉大会

知事感謝状

さつき荘 副主任 援助員

鈴木 千絵

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5
● 法人本部 ☎ 042-393-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎ 042-313-0301
- 村山荘（救護施設） ☎ 042-391-1262
- ハトホーム（特別養護老人ホーム） ☎ 042-393-7574
- 第2ハトホーム（特別養護老人ホーム） ☎ 042-306-2320
- 福祉事業センター（障害福祉サービス事業） ☎ 042-395-3636
- ふじみ保育園（保育所） ☎ 042-394-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2
● さつき荘（救護施設） ☎ 042-396-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2
● つばみ保育園（保育所） ☎ 042-393-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1
● ほんちよう保育園（保育所） ☎ 042-399-2100
- ほんちようケアセンター（高齢者施設） ☎ 042-399-2102
- 〒186-0003 東京都国分寺市戸倉2-27-6
● ひよし保育園（保育所） ☎ 042-843-0202

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い申し上げます。



村山苑一同

◆あとかぎ◆

今号は「地域公益活動」を考える研修の学びを中心に報告しました。多様な連携の強みを活かし、地域に求められる質の高い福祉サービスを提供できるよう、職員一同、心を新たに取組んでまいります。（Y・S）

― 表紙の写真 ―

「もうすぐ春」

提供者 匿名希望

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

* * *
ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和八年一月一日 発行
東京都東村山市富士見町二七―五
社会福祉法人 村山苑
発行者 相原 弘子
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都墨田区両国四―一―八